

ハート・オブ・ゴールド



vol.17

2007年7月1日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局

本部 〒701-1213 岡山市西辛川872-2

T&F 086-284-9700

メール:hginfo@hofg.org

※メールアドレスが変更になっています。

URL : <http://www.hofg.org/>



指導要領合同セミナー



身体・体力測定



カンボジア王国小学校体育科指導書作成支援事業

ついに待望の指導要領が完成！

2006年2月の事業開始から、はや1年4ヶ月。遂に小学校保健体育科指導要領最終案の完成にこぎつけ、教材承認委員会(EMAB)の認可も下り、既に7,000部の印刷に入っております。刷り上りと同時にWG(指導要領作業部会)が出張し、カンボジア全土の小学校へ直接配達されます。

先日行われた指導要領合同セミナーでは、現地政府関係者、拠点校の教師が一堂に会し、指導要領の実用化に向けての使用法などが説明されました。カンボジア初の試みであり、また戦後復興の中で取り残された分野でもある為、教師陣は目を輝かせてWGからの説明に耳を傾けていました。

今後は、指導要領を基にした教師用指導書の作成、モデル校への簡易スポーツ施設の提供、日本から招へいされた専門家による体育授業の研修会、そして、指導書活用の巡回と実態調査を予定しております。また技術移転のみならず、その作成プロセスにカンボジア側関係者が主体的に関与し、共有していく過程も重視しつつ、事業を進めています。

この一年が本事業のヤマ場になります。本事業に携わっている方々が、健康で充実した活動ができますよう、期待と共に、今後ともより一層の応援をお願い致します。



ラストランを終えて

有森 裕子

“走る事”を始めて25年、2度のオリンピック出場を含み、12回のレースを走る事ができました。そして、12回目の2007年2月18日東京マラソンを引退レースとして、これまで応援いただいた方々へ感謝の気持ちを込めて最後のフルマラソンを走りました。寒い中、沿道からの途切れない“アリモリコール”を受けながら、『マラソン』という競技を通じてめいっぱい生きてこられた日々に、そしてこれだけの声援を送ってくださる人々に出会えた事に感謝の気持ちでいっぱいです。

現役時代よりスタートしたハート・オブ・ゴールドを立ち上げてそろそろ10年、今まで以上に会員の皆様と共に、スポーツで元気になってもらえるよう自分自身を含めて『人づくり』に励みたいと気持ちも新たな再スタートです。今まで本当に応援ありがとうございました。そしてこれからも宜しくお願い致します。

アンコールワット国際ハーフマラソン2007

12月2日(日) 午前6時30分スタート

主催：カンボジア陸上競技連盟(KAAF)、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)

主管：カンボジア陸上競技連盟(KAAF)

運営：アンコールワット国際ハーフマラソン 組織委員会・実行委員会

運営協力：<特活>ハート・オブ・ゴールド、<特活>日本医師ジョギング連盟

特別協賛：第一三共株式会社

協賛：株式会社アス・ワン、株式会社小学館

プレイベント

○アンコールウォーキング2007

特別協賛：株式会社アス・ワン

○前夜祭



HGカンボジアスタディツアー参加者募集中！エントリーは7月よりスタート！

カンボジアの教育現場を訪ねるスタディツアー計画中！（年末・年始）ぜひご参加下さい。

日本語教室



日本へ送るカード作り

現在の日本語教室は、「桜組」16名、「ふじ組」19名、「ひまわり組」19名の3クラスと中高校生1クラスで、月曜日から金曜日の午前8時半から11時半及び午後1時から2時までの毎日日本語授業を行っています。

教室には、日本の学校からの心のこもった手作りの日本語教材やカレンダーなどを掲示し、文房具やぞうきんなどの支援いただいた物資を使用しています。

日本からの訪問も続いており、昨年12月には岡山学芸館高等学校の英語科生徒5名と引率の先生が来られました。

また、株式会社アス・ワンより教材や文房具、「わの会」(岡山) よりとても素敵な手作りリースやお菓子などのクリスマスプレゼントをいただき、子どもたちは大変喜んでいました。

今後は、本教室で学んだ生徒が、日本で更に、日本語、英語、コンピュータや日本文化を学習する機会を得、日本とカンボジアの架け橋となる人材育成ができれば、と考えています。子ども達の希望が現実のものとなります。

HIV/AIDS 予防教育



3月6-7日にカンボジア・バットバンにある3つの中学校にて、HG CYA_JYAメンバーがHIV/AIDS予防教育の活動を展開。「同世代から同世代へ」の教授であるピア・エジュケーション(仲間教育)が一般的な教育と違い特徴的だ。今回は、カンボジア人学生6人が主導し、カンボジア在住日本人学生2人、日本の学生3人が参加した。

スポーツやゲームで交流し、クイズ形式でのドラッグへの注意喚起、エイズを題材にした劇でパフォーマンスするなど工夫を凝らした活動であった。

国際理解教育

学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。

子ども達が、世界の現状(貧困・環境・平和など)に目を向け、グローバルな視点から、国際理解(異文化理解)を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。

学習方法は、学校によって、違いがあるが、1学期は:知ろう、2学期は:関わりよう、3学期は:振り返ろう、というテーマに沿って活動した。

また、20回、日本語派遣教師やスタッフを学校に派遣した。

支援内容は、学校を建てること、道路や橋を作るといったこと、緊急支援のように活動が目に見えるものでなく、人を育てるといふ、ソフト支援であるために、達成状況がなかなか数字で表せない。しかし、人材育成こそが、最も大切な支援の一つであり、1年間を通じて途上国に実際に関わる事が、日本の子ども達にとって与える影響は大きなものがある。自分と同じ海の向こうに友達ができ、始めはかわいそう!からはじまっ



た学習は、その人たちの生き方に触れ、尊敬ともいえる気持ちが芽生え、生きる力を与えられた学習となった。

貧困、環境、食料、人権、平和などが、どれもつながりをもっている事を感じ、未来に向けて小さな事でも何かを変えていく事がとても大切な事を気づき、それに向かって仲間と活動することが、楽しい事だと感じてもらえたと思う。そして、HGのモットーである「できる事を、できる人が、できる限り続ける事」を広げていく事ができた。

この活動を始めて8年になるが、継続することにより関係学校の子ども達に与える影響は計り知れない物がある。

新チャイルドケアセンター建築/ハート・ペアレント



バットバンセンター・シムリアップセンター・お寺と、子どもたちの受入れ場所が分散した状況での運営を解消すべく、シムリアップに新しいチャイルドケアセンターを建設する事業が昨年4月から始まっている。

今年1月に日本より大隈雄一郎氏、弓埜ゆかり氏が責任者として赴任。地鎮祭、測量、造成のあと、現場仮設事務所を設置し本格的な工事に入った。木材の高騰と統制により、自由な売買が困難となっている現状から、バットバンの施設を解体・移転することにした。5月には、現場資材倉庫及び道具収納庫を建設し、男子寮建設に取り掛かっている。秋には完成見込み。

男子寮が完成した後、男子女子衛生管理棟をはじめとする新しい工事の各種許認可申請、現場の埋立て、資材調達、路盤整備工事に取り掛かる予定。

この事業は、チャイルドケアセンターの職業訓練の一つとしても位置づけており、現在、バットバンのセンターにいる3名のハート・チャイルドが建設現場で研修生として、参加している。



※ NCCC 建設プロジェクト支援金募集

一口1,000円以上。寄付をくださった方は、名刺の大きさに名前やメッセージを書き、当センター内に掲示する。

かすみがうらマラソン・カンボジア義足ランナー招聘事業

- ・日時／2007年4月12日(木)～2007年4月16日(月)まで (マラソン参加日は14日(土)・15日(日))
- ・場所／東京都内 (スポンサー御礼挨拶、観光) 土浦市内 (スポンサー御礼挨拶、マラソン大会参加)



東京観光： <左より>今田さん、ケオ・ソ・チェトラさん、チン・パン選手、サン・マオ選手、高橋さん



かすみがうらマラソン大会にて選手宣誓

昨年のカンボジア招待選手2名の初参加に続き、今回は義足ランナー2名(チン・パン選手、サン・マオ選手、通訳ケオ・ソ・チェトラ氏)の参加です。

当日は天候に恵まれ、前日まで心配されていた夏日の感はなく、ランナーにとって丁度良い気候となりました。

開会式では、有森代表挨拶に続いて招待選手2名が紹介されると、会場から大きな拍手と声援が送られ、スタート前から選手2名は極度の緊張状態。

記念撮影のためにメディアから笑顔を依頼され、頬を引きつらせなが笑顔を彼らを忘れる事ができません。彼らにとっても忘れることのできない経験となった事と思います。

生活用の義足からランニング用の義足に付け替えてスタート場所までの移動途中、見学者は無論、一緒に走るランナーからも握手を求められたり肩を叩かれたり。ラン

ナーの皆様、大会関係者皆様の温かい気持ち私たちがボランティア・サポーターも感じる事ができました。

結果は2名ともに彼ら自身の予想を下

回るものですが、ゴール後、『マラソンの持つフレンドリーシップを確認できた事は、タイム結果より意義がある。かすみがうらマラソン関係者とハート・オブ・ゴールドに感謝します』との言葉にスタッフも感動…。

本当に素晴らしい大会でした。ありがとうございました。

(外伝) 彼ら2名の緊張は都内での活動初日から見て取れ、緊張も手伝って都内の移動

手段である車に酔ってしまい、結局、移動手段はトータル時間の半分を徒歩にて実施…と、なりました。

ハート・オブ・ゴールド／東日本支部
志澤 公一

※ HG会員の今田修さん、同 高橋真理子さん、同 山口勉さんにお世話になりました。どうもありがとうございました。

今年 AIHM スタディツアー参加予定! の飯田クラブ

HG/飯田クラブからは、結成以来多くの支援、協力をいただいています。活動もユニークで、そのなかの一つは、飯田のりんごジュースにHGのラベルを貼り、売り上げの一部をHG支援に充てる、というもの。無添加でも甘みは十分。これからの季節にピッタリの安心できるおいしさです。

お問い合わせは、HG事務局まで。

ご注文は、FAXにて。



飯田市立川路小学校の六年生十四人と保護者ら三十人が有森さん直筆サイン入りTシャツをきて八キロを完歩。

『スポーツを通じた夢づくりシンポジウム&トークショー』

日時：2007年2月27日(火) 場所：大手町サンケイビル4F『サンケイホール』

<主催> 特定非営利活動法人「ハート・オブ・ゴールド」、産経新聞社

<特別協賛> 第一三共株式会社

第1部では、「ハート・オブ・ゴールド」代表有森裕子、「ハート・オブ・ゴールド」アジア地域事務所長 山口拓他、国際協力機構(JICA)人間開発部基礎教育第一チーム長 原 智佐さん、筑波大学大学院人間総合科学研究科助教授 岡出美則さん、アトランタ五輪バスケットボール日本代表キャプテン 原田裕花さん、にご参加いただき、「アンコールワット国際ハーフマラソン」や「青少年スポーツ祭」他、さまざまな支援活動についての分かりやすいシンポジウムが行われ



ました。

第2部では代表有森裕子と、サッカー選手として世界を舞台に活躍し、現在は解説者である武田修宏さんとの楽しいトークショーが催されました。

活動便り

<東日本支部>

2/27 スポーツを通じた夢づくりシンポジウム&トークショー(産経)

4/15 第17回かすみがうらマラソン

<西日本支部>

2/18 HGチャリティ登山

3/4 第27回篠山ABCマラソン大会

3/18 2007千里国際チャリティラン

<飯田クラブ>

かすみがうらマラソンへのカンボジアランナー招聘支援。

ソカーさんのキーホルダー販売支援。

カンボジア障がい者陸連運営資金支援。

チャリティ登山(大阪・金剛山) 2月18日



小雨の中の山頂アタックとなりましたが、参加者28名は怪我もなく、無事に登頂しました。

参加した皆様、協力くださった皆様に感謝しつつ、自然を満喫し、楽しい時間が過ごせました。

チャリティ 17,000円

内訳：14,000 (@500*28名)

3,000(募金)